

17 佐賀藩医相良柳庵・相良弘庵（知安）の系譜について

相良 隆弘

佐賀医学史研究会

1. はじめに——相良柳庵の系譜

筆者は、佐賀藩医相良知安より五代目の子孫にあたる。相良長安（元祖相良柳庵）は、寛永18（1641）年に出生し、明暦年間（1655－1657）に長崎に留学して通詞西吉兵衛に就いて外科を学ぶこと十余年、南蛮・紅毛の二流の医学を会得し、佐賀藩深掘領主鍋島志摩の家来となり佐賀城下に居住する。扶持（ふち）米（まい）九石後加増九石合わせて十八石賜る。これ以来代々相良柳庵を名乗り、代々佐賀藩医の医家を相続していく。相良伊安（二世相良柳庵）は、延宝6（1678）年出生。相良正安（三世相良柳庵）は、宝永元（1704）年出生し、佐賀藩7代藩主鍋島重茂公の侍医となり25人扶持を賜る。相良徳安（四世相良柳庵）は、元文4（1739）年出生し佐賀藩8代藩主鍋島治茂公の侍医となり6人扶持を加増賜る。相良安昌（五世相良柳庵）は、安永2（1773）年出生し佐賀藩9代藩主鍋島齊直公の侍医となり、3人扶持加増し、世録合わせて34人扶持を賜る。相良長美（六世相良柳庵）は、享和3（1803）年出生し、鍋島茂實（後の佐賀藩11代藩主鍋島直大公）の侍医となり藩医学寮指南方に就任。相良安定（七世相良柳庵）は、文政11（1828）年、相良長美（六世相良柳庵）の長男として出生し、佐賀藩10代藩主鍋島直正公の侍医となる。「適塾」で蘭医学を3年間学ぶ。藩医学校「好生館」指南役のち教導方に就任。相良弘庵（知安）は、天保7（1836）年、相良長美（六世相良柳庵）の三男として出生して、佐賀藩主鍋島直正公の侍医となる。医家の相良福好（春榮）家の養子となり跡目相続する。長崎で蘭医ボードインに師事し蘭医学を学ぶ。明治2（1869）年「医学校取調御用掛」任命。我が国へドイツ医学導入に尽力。第一大学区医学校学長（現東大医学部）兼文部省医務局長を歴任。『医制略則』（85箇条）を起草。

2. 演題を発表する理由

以上のように相良家の代々の医人達は、代々相良柳庵と名乗り、元祖相良柳庵（相良長安）から七世相良柳庵（相良安定）まで続いてきた。この「柳庵」は通称であり、「長安」が諱（いみな）（本名）となります。近年一般の歴史愛好家や若き世代の研究者の一部には、相良柳庵＝相良弘庵（知安）が同一人物と誤解したり、両者を混同して理解している文章や見解が散見される。そこで今回、相良柳庵と相良弘庵（知安）の系譜を発表して相違点を明確にし、以て正確な理解と知識を得てもらいたいのを発表する理由。

3. 誤解する記述例と正確な記述例

事例として、相良知安に関する記述の中で「父は柳庵長美の三男として生まれた」との文章がある。この文中で「柳庵長美」の文言は、正確に「相良柳庵（長美）」と記述すべきである。「柳庵長美」との人名は無く、不正確であり誤解を生じる。「相良柳庵」を「柳庵（長美）」と混同して理解している事例である。過去の古い文献にも、単に「相良柳庵」とのみの記述されているのが、多々散見される。その為、何世の「相良柳庵」であるのか、「諱（いみな）（本名）」は誰なのかとの疑問が出て誤解が生じるのである。また相良弘庵とは、相良知安と改名する明治2年頃までに名乗っていた旧名である。

4. まとめ

よって正確に理解するためには、「相良柳庵（○世○○）」と記述するか、又は「相良○○」（○世柳庵）と正確な記述が必要となる。「相良柳庵」のみの記述では、何世の人物なのか、どの時代の「柳庵」なのか特定できないし、誤った理解・知識を与えてしまうのである。そこで今回発表することで、相良柳庵・相良知安研究の基礎的な理解・知見であることを理解して欲しいと同時に、今後の研究の参考になれば幸いである。最後に筆者は、相良知安HPを開設し公開・発信している。標記演題の系譜についても掲載し、公開しているので、併せて下記アドレスへ検索頂ければ有難い。

<http://www.sagarachian.jp/main/>